

俳句を写真画像と共に楽しむ

●しゃらくかい

写楽同会

令和 2年 9月 30日 57

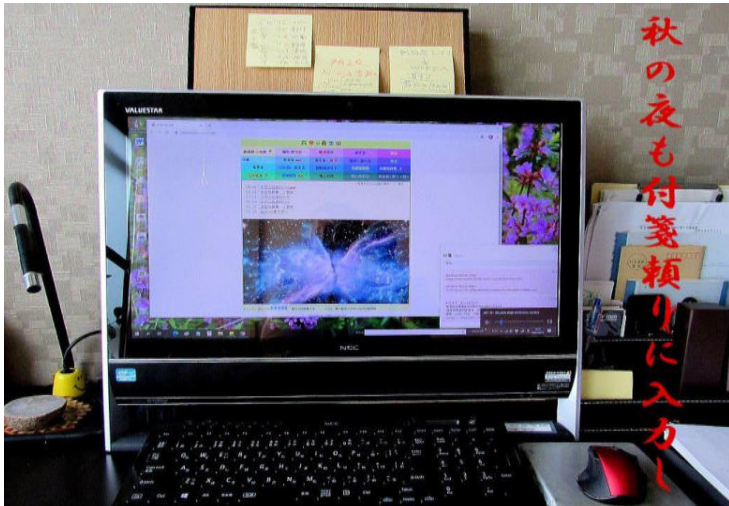
<https://3ban.nobody.jp/syaraku/syaraku.html>

投稿/投票宛先 ; kinuko_thompson@hotmail.com

© 2020 Sharakukai

長月兼題「落書き」 出題：一枝

写真俳句



1 秋の夜も付箋頼りに入力し

Windows10には 付箋(sticky notes) が付いています。画面の片隅に置いておき、一寸したメモをします。でもやはり頼りになるのは、ポストイットに書いて貼り付けた手書きのメモです。



2 ペンキ絵と湯に癒されし秋暑かな

落書きとは言えぬが、さりとして芸術とも言えぬ。これぞ次代に伝えたい銭湯文化（借画像）。



3 白波にLoveの字消され夏終わる

青春の1ページです。 love letters in the sand ♪



4 寺社の扉(ひ)に古き落書き法師蟬

寺などへの落書きは奈良の昔からあったそうです。



5 秋立ちぬ似顔絵の汝の若きまま

ペイント缶持ってあちこちに出没するグラフィティ仲間たちの一人が亡くなったらしく、この肖像が道路下の壁に残されました。私も21歳の時に大事な友人を失ったので、見る度に胸が痛みます。



6 梅雨空に立つチャーチルの顔悲し

6月にイギリスの新聞を騒がせた写真です。

今は元に戻りました。





7 人が居て落ち葉舞う街落書居る



8 投げ決まる皿の楽がき草相撲



9 汗掻きてテーブル裏に子のアート

テーブルの裏は絵を描いたりシールを貼ったりの許可を出していました（写真は他所の家のテーブルです）。

俳句



撮影：一枝

1 幼き絵路上に残し秋はじめ

今年の夏休みは短かった、学童達がチョークの絵を踏みながら登校する。

2 地下鉄の窓の結露に落書描く

3 落書きのごとき入れ墨晩夏かな

どうしてあんなにと、悲しく思うほど今夏は入れ墨を見ました。

4 炎夏路地 如露で丸描き けんけんば

如露（じょろ）は如雨露と同じ。地面に水で丸を描きけんけん遊び。

5 恐竜の孫の落書き秋うらら

6 シャッターの落書き増えて秋の風

悲しいご時世です。

7 秋の日の会議資料に絵を一つ

外は良い天気なのに退屈な会議が長々と続いています。

8 似顔絵を名刺にするす秋灯火

営業マンで帰社すると名刺にいつもその人の似顔絵を書いていました。

短歌

隅っ孤

注：「隅っ孤」は写楽句会の俳号ですが、隅っ孤さんは10代から短歌を始められ、短歌結社「表現」に属されています。以下はその同人誌9月号に投稿された短歌の一部をご了解を得て転載しました。認知症のお母さま（100歳）との二人暮らしです。

一時間余りに三十一回を起き伏して母の今宵の徘徊は止む

ひと夜でも介護の代り無きものか寝不足の身は時に揺れつつ

部屋内の二米(メートル)程を行き来する母の目この世の外(ほか)を見てみむ

明け方にわが顔頻りに触りては吾の生死を確かむる母

「有り難う、済まない」母が掛け呉るるその一言に救はれてをり

準坊

リモートで懐かしの友再会に声や仕草に昔へ還り

自粛で会うことも困難なこの時代にリモートは便利。

北切雀

孫の絵の線の姿の確かさやたかが落書きされど落書き

落書きにも孫の成長を認めたい婆ばかです。「の」で攻めました（笑）。

川柳

準坊

A.T.M.暗証忘れ怪しまれ

度忘れして焦りまくり。

歳重ね減る事無きの持病増え

歳を重ねて来ると持病も多くなって来ます。自然な事ですね。

北切雀



落書きの値千金バンクシー

落書きの値千金バンクシー

彼は医療機関や難民支援などに巨額の寄付をしています。

殴り書きそれでもロゴは落とせない

写真を見ないとわからない川柳ですが、DKNYのバッグです。ロゴをどう入れるかがデザイナーの腕の見せ所。



街角の落書きアートこれも表現

集線盤とでもいうのでしょうか。不特定多数の人の目に触れるアートです。

写真投稿

iSAMU



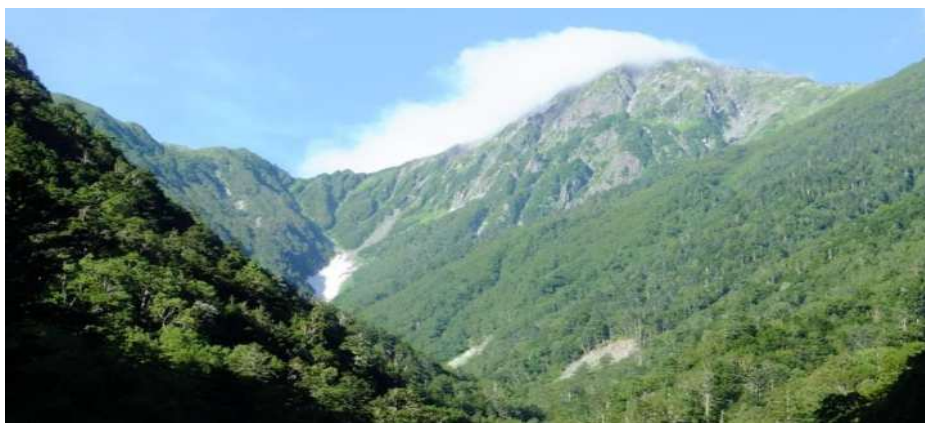
・ 稷萩 (みそぎはぎ。盆花)

盆に仏前にお供えし禊をします。



・ 藪茗荷 (やぶみょうが)

秋の終わりに黒い実を付けます。



・夏の北岳

南アルプスにある3193mの日本第二の山です。

北切雀

5ページの集線盤川柳の他の例です。落書き防止策として市が美大の学生に描かせたとか。



令和2年8月「雲」（出題：昼寝覚）の作品と投票結果

<< >>は作者コメント、* は読者コメントです。

* 「池塘」「拭暁」は新しい言葉、「闊ぐ」は忘れていた言葉。勉強になった号でした。

写真俳句 投票数：28

一席

初夏の朝雲と庭木の語りかな 千泉（6票）



初夏の朝雲と庭木の語りかな

<< 午前7時ごろでした。>>

- * 木の影のような雲との対比が面白い。シャッターチャンスに感心！
- * 本当に雲と松が向き合って話いるよう。
- * いい瞬間をとらえた写真！ 絵本を思わせるような句もグッドです。
- * 傾いた木がいかにも雲と話しているようです。
- * 夏の訪れを喜ぶように雲と木々のおしゃべり。ゆっくりとした雲に庭木も笑顔で応えているよう… 愉快的気分になる句です。

佳作（令和2年8月号掲載順）

夫と行く道の高低夏の雲 一枝



夫と行く道の高低夏の雲

<< 高低は自分としては「たかひく」と詠んでいるのですが、「こうてい」でも構わない気もします。>>

- * 水に雲が映り込んでるのがいい。高低だけでなく湾曲した長い道のりの二人三脚ですね。
- * 広々とした高原の感じがよく出ています。ただ、写真で見ると道は平坦なようですが・・・。
- * こんな風景をお連れ合いと共有する喜びが羨ましくも微笑ましい。
- * 仲が良いですね。高低が夫婦のこれ迄の歩にも重なっているのではと感じられます。
- * 道の高低も人生の高低もご夫婦で共にされているという、感慨深い素敵な句ですね。

長雨に漸くの夏あかね雲 久芽



長雨に漸くの夏あかね雲

<< 今年の梅雨は長くて7月は雨の降らない日は1日しかありませんでした。8月に入って漸く梅雨明けしました。>>

- * 刻々と変わる色と姿。しばらく見とれてしまう空。
- * 長梅雨の締めくくりは美しいフィナーレ。猛暑の予感となるや。
- * やさしい色の写真で漸くの気持ちが感じられます。

夏雲や地塘（ちとう）に映えて疲れ飛び iSAMU



夏雲や地塘に映えて疲れ飛び

<< 尾瀬の地塘に映り込んでいるのは燧ヶ岳（ひうちがたけ）です。ここまで来るのも大変ですが、燧ヶ岳の登山路は急峻で大変でした。>>

- * 見事な水かがみ。なかなか見られない光景で疲れも吹き飛ばすことでしょう。
- * 尾瀬ヶ原には1800もの池塘があるそうで、どれも神秘的で美しい。俳句を詠むには格好の風景です。

紺碧に白を上塗る雲の峰 準坊

<< 真っ青な空に真っ白な入道雲。感動を覚えます。>>

- * 空に雲の色を重ねるとは絵心ある人の発想。感動は大切にしたいですね。
- * 湧き立つ入道雲と抜けるような空。ダイナミックに盛夏を読んで外連味のない句。幼少の時分こんな雲の Teppen に乗りたいと思ったものです。
- * よく見る空の様子なのに句をつけて完璧な図となっているのが素敵です。
- * 王道ですね。



ひつじ群れ眺める天の高きかな 池福楼

<< 季重ねにならないようにしました。>>

- * 天の太った羊たち。作者と一緒に空を仰ぐ。
- * 珍しい雲 を撮れましたね。



蝉の声空の雲までとどくまい 梵木

- * 逆に「これほど遠大な空にさえ蝉の声は届く」と季語の蝉を強く出した方が良かったのでは？パソコンの壁紙にしたいような、のびのびした気持ちにしてくれる画像です。
- * 画像と相まってわらべ歌の如し。或いは絵本のプロローグのように夢がある句。



弘暁 (ふつぎょう) の空に一筋秋の雲 昼寝覚

<< グラナダに泊まった朝、散歩に行ったところ朝日に輝く一筋の雲が建物の間から見る事ができました。>>

- * なんだか大きな鳥が地上近くを飛んでいく翼にも見えてくる、想像力を掻き立てられる壮大な一枚！
- * きれいな雲ですね。
- * 何とも幻想的な雲ですね。



秋立つと草の囁き雲の声 北切雀

<< ありふれた句ですが、この写真は懐かしい。引っ越してもう5年、そしてまた秋か…という気持ちです。>>

- * 爽やかな風が吹き渡っているようですね。
- * ご自分で「ありふれた」と謙遜されていますが、中々に味わい深い。中七と下五のリズムの良さ、秋の訪れをメランコリックに語っています。





撮影：昼寝覚

一席

雷神の目覚めの気配積乱雲 準坊（5票）

<< 雷雲の発生には要注意。>>

- * 稲妻を見るのは大好き。
- * 「雷神の目覚め」という表現がいいですね。
- * 雷のなる気配確かにありますね。
- * 最近、都会での雷の威力が増している気がします。
- * 目覚めの気配という表現が気に入りました。
- * 怒りの雷神さまを起こしてはタイヘン。明るく朗らかな（地上の被害を与えないような）鬼であって欲しい。

店終い幾星霜のうろこ雲 池福楼（5票）

<< コロナの影響で馴染みの店（豆腐店）が廃業。店主のこれまでの辛苦を称えるようにうろこ雲が広がる。>>

- * なんとも無念なことでしょう。これからの世の中はどうかわるのでしょうか。お疲れ様でした。
- * コロナ禍の中胸にしみる句でした。
- * 長い間ご苦労様でした。ウロコ曇もそう言ってくれているでしょう。

佳作（令和2年8月号掲載順）

海と空どつちに浮かぶか白い雲 梵木

- * 好天の空と凧の海。どちらも青く美しく、迷っているのは作者か雲か。
- * 真っ青の空と海。境界線が溶け込んでいくような真昼の幻影。
- * 無季ですが、中七の8音が飄々として感じを高める効果を出しているように感じます。

網で追うダボハゼ早し雲の峰 昼寝覚

<< 幼いころ、潮だまりで小さな魚を捉えようと、網で追いかけますが、すばしっこくてなかなか捕まえることはできませんでした。>>

- * 潮だまりの楽しさ、興奮は格別でした。
- * 子供の頃の真夏の海遊びのシーンを容易に思い浮かべることが出来る句。
- * 夢中になっていた幼い頃のシーンが焼き付いていたのですね。

茹で上げた素麺光る雲光る 北切雀

<< 家族に冷たい素麺をと、台所で大汗の母でした。>>

- * 素麺と雲が「光る」の韻を踏んで楽しい。素麺は瑞々しい美味しさを、入道雲の輝く白と重ねて季節感溢れる句です。
- * 夏はやっぱり素麺ですね。素麺を器に移す光景が浮かびます。

槍の先雲湧くところソーダ水 久芽

<< 槍ヶ岳の頂上は中々見る事が出来ません。ソーダ水を飲みながら暫く眺めていました。>>

- * 登山の途中、汗を拭って小休止をしている感じが良く出てますね。
- * 「プレバト俳句」フジモンの句を彷彿とさせる楽しい句。上五は「槍ヶ岳」と言った方が分かりやすい？
- * ハイカーには堪らない槍ヶ岳の鋭角に天を突く岩峰の魅力を良く表している。
- * 槍の頂を優雅に眺めている様子が目に浮かびます。

黒雲と闘 (せめ) ぐスケボー半ズボン 一枝

<< 雨の中で遊ぶ孫の写真を見て発想を飛ばしました。>>

- * 同じく… どうして雨の中で遊ぶのが好きなのか… 「闘ぐ」と「半ズボン」の着地が効いています。
- * 天候なんかには負けない、やんちゃ坊主の心意気。黒雲とスケボー半ズボンの言葉が激しい躍動感を見事に表現していますね。
- * 雨も物ともせず、スケボーの練習をしているお子さんの姿が目に浮かびます。
- * 黒雲と争い会うように魔物と戦うゲーマーのように少年が走り抜ける。
- * 黒雲とお孫さんの闘いですね。

雲間から月光のぞく月見草 千泉

- * 佳人のような月見草の姿が浮かんできます。
- * 静かなひとときの美しい情景を感じさせてくれて幸福感に満たされます。

写真いいね!



ひつじ群れ眺める天の高きかな 池福楼

<< 季重ねにならないようにしました。>>

推薦者：読者JAさん



払暁 (ふつぎょう) の空に一筋秋の雲 昼寝覚

<< グラナダに泊まった朝、散歩に行ったところ朝日に輝く一筋の雲が建物の間から見る事ができました。>>

推薦者：池福楼

- * 旅先の感動が写真から伝わってきます。雲はもちろん建物のシルエットと灯火もいい味わいです。

短歌

準坊

食べ頃を
鳥に突かれ落つトマト
採る楽しみを
一つ減らさる



<< 丹精込めた庭のトマト。鳥にも美味そうに見えたのかな。>>

* トマトの収穫の楽しみは減ったようですが、腹を空かせた鳥にほどこしを与えた。何かいいこともあるでしょう。

北切雀

ゆったりと星空よぎる雲を見る明日は晴れるかスマホの画面

<< スマホのお天気情報画面を見るのが好きです。>>

* 全国民への一律給付金を使い、私も遅ればせながらスマホデビューしました。色々な情報が溢れて時を忘れます。

川柳

準坊

国会閉じ巣籠もり決め込む某総理

<< 逃げないで説明とリーダーシップを取りなさい！>>

* またも投げ出してしまったアベさん。その後の総裁選も昔のままの派閥の数と老害の権力争いに終始。変わらないね～。

写真投稿

iSAMU

* いつも楽しみにしている写真投稿です。珍しい花の数々の画像はどちらで取材されるのでしょうか？
また花名の調べ方はどうですか？

iSAMU : 草花の名前は「季節の花」のサイト (<https://www.hana300.com/>) を良く利用します。
またGoogleの写真検索も利用しますが、お薦めはスマホのアプリの「Google Lens」です。
これはAIが背後で動いているようで素晴らしいアプリです。今では植物図鑑などは滅多に利用しません。
「写楽」以外にほぼ毎日投稿しています「写真俳句」 (<https://plaza.rakuten.co.jp/136mori/diary/>)
では大半が花なので、それはもう大変です。いつまで続けられるか？です。
写真の取材はもっぱら志木周辺を歩き廻ってデジカメに納めます。花壇やよそのお宅の庭の草花、
僅かに残る武蔵野の雑木林、柳瀬川の川辺そして近隣の田畑がカメラワークのフィールドです。



・屁糞葛（灸花）

* 「かわいい花なのにひどい名前をつけられて」と母は同情していました。乙女葛という人もいます。

- * 令和2年神無月10月は読者CKさんから「月」、霜月11月は池福楼さんから「公園」と出ています。
- * 令和2年長月9月号の作品の写俳、俳句の中で「いいね」と思われた2作品の番号を投票して下さい。
- * 句とは別に、写真として特にいいと思われる写俳作品がありましたら「写真いいね!」として投票下さい。
- * 投票しなかった作品へのコメントも遠慮なくお寄せ下さい。短歌、川柳も大歓迎です。
- * 令和2年9月号への投票、10月号作品への投句、投稿の締め切りはともに10月20日です。
- * 随想、珍事報告など書き込みの他、読者さんからの写真や句の投稿、兼題提案もお待ちしています。

「写楽句会」(五十音順)

池福楼、iSAMU、一枝、北切雀、準坊、隅っ孤、沈丁花、千泉、久芽、昼寝覚、梵木

筆責：北切雀 校正：準坊、池福楼

写楽句会 連絡先：kinuko_thompson@hotmail.com

© 2020 Sharakukai

写楽句会 : <https://3ban.nobody.jp/syaraku/syaraku.html>

四季の森空間 : <https://isamusouma.web.fc2.com/>